

高砂小学校5年生の皆さんに出前講座を行いました

1. 概要

平成24年12月5日(水)に、仙台市立高砂小学校にお邪魔し『港の役割』に関する出前講座を行いました。
現在、小学5年生は、横浜港の例をもとに外国との貿易を学習しており、この関連として、地元の仙台塩釜港ってどんな港?どんな船が入っていて、どんな貨物を、どこへ、どの位運んでいるの?といった内容を教えて欲しいとの依頼にお応えし、実施したものです。少し前には、トヨタ自動車の工場を見学したとのことで、児童は完成した自動車がどの様に運ばれるのか?なども興味を持っているとのこと。
対象は5年生3クラス86名。東日本大震災により被害を受けた、仙台港区の復旧工事の状況も交えて、お昼前の約1時間にわたって勉強していただきました。

2. 出前講座の様子

出前講座では、資料とスライドを使って宮城県にはどのような港があるのか、それぞれの港の特色を説明しました。全ての貿易量の99.7%が港を通じて取り扱っていることや、食料の約60%を海外に依存していること、国産と思って食べている食べ物も、実は外国から輸入された飼料(エサ)によって育てていることなどを説明しました。

児童は熱心にメモをとって、港と暮らしの関わりについて学んでいきます。

次に、学校の近くの仙台塩釜港仙台港区についてです。名古屋、仙台、苫小牧を結ぶフェリー、コンテナ貨物輸送、岩手、宮城で生産された自動車の輸送など、仙台港区に出入りする船の種類や大きさに興味津々の様子です。

最後は東日本大震災により震災した港湾施設の復旧についてです。

仙台港区にある高砂コンテナターミナルを復旧し、大型コンテナ船が入港する様子や、傾いた防波堤のケーソンを作り直す様子など、動画を交えて説明しました。



港で取り扱う貨物を説明しています



メモをとりながら熱心に聞いてくれています

3. クエスチョンタイム

説明の後、質問と感想をいただきました。主な内容を記載します。

Q: 防波堤のケーソンはどのようにして海底に沈めるのですか?

A: ケーソンは鉄筋コンクリートで出来ていてとても重いのですが、中が空洞になっているので海に浮きます。フローティングドックという浮き船の上でつくられたケーソンは、フローティングドックの中に海水を入れて浮き船を沈めると海に浮きます。それを防波堤まで引いていきます。据付位置にきたらケーソンに海水を入れて沈めます。

Q: 飛鳥ⅡってことはⅠもあるのですか?

A: 飛鳥Ⅱは初代飛鳥の代替船としてつくられました。現在は飛鳥Ⅱが航行しています。

Q: 船の名前に“NYK”と書いていますが、この意味は?

A: N(日本)、Y(郵船)、K(株式会社)の略称で、船会社の名前です。

Q: 牛や豚のエサは、何故、輸入しているのですか?

A: 国産の牛や豚の多くは、安く手に入る海外からのトウモロコシなどを食べています。安いエサを与えることで、消費者は国産肉を安く食べることができるのです。

Q: コンテナは何処でつくっているのですか?

A:コンテナは運搬する船会社がついています。自分の会社の名前やロゴマークを付けて貨物の仕分けを分かりやすくしているのです。企業PRにもなっています。

〔代表児童からの感想〕

今日の学習で、港が貿易量の大半を占めていることや、食べ物の約60%が海外からの輸入によることなど、港と生活の関係を学ぶことが出来ました。また、近くにある仙台港の役割も知ることが出来ました。ありがとうございました。



質問しています(女子児童)



質問しています(男子児童)

4. おわりに(児童の皆様、学校関係者の皆様へ)

東北地方整備局では、港湾の他に河川、道路など国土交通分野について、様々な出前講座を行う用意がありますので、必要に応じてご相談下さい。また、この度の大震災の復旧・復興には、復旧工事の他にガレキ処理の仕事などに、たくさんの方々が現場で頑張っています。テレビや新聞で、このような話題が報じられる機会も多いので、是非、興味をもっていただき、児童さんには、将来、自分が地域のために何ができるのか、考えるきっかけになれば有り難いと思います。